

生誕 140 年 YUMEJI 展 大正浪漫と新しい世界

東京都庭園美術館（白金台5）24.06.01～08.25 岡山、大阪、富山等巡回

「東京都庭園美術館」は、昔皇族が建てた旧朝香宮邸の居住空間をそのまま活かした、アール・デコ様式の風変りな建造物を美術館にしたものである。

<本展の見どころ>

1. 幻の名画《アマリリス》公開。

長らく所在不明であった油彩画が近年の調査で発見され、東京で展示される初めての機会に、貴重な油彩画も多数展示され夢二の一面に迫る。

2. 初公開のスケッチブックで晩年の「夢二」に迫る。

晩年の約2年間は、欧米各地を巡回してスケッチで制作活動を行ったが、前半はナチズムが勃興する不安な時期であった。しかし、滞在中の出来事の多数をスケッチ帖に残しており、本展では初公開がされている。

3. 邸宅空間で夢二の作品世界を味わう。

本展の会場の本館は、かつて「朝香宮家」の自邸の場所で、多彩な装飾が見どころの場で、美を体験する邸宅空間の中で夢二作品を鑑賞できる。

4. 100年を超えて愛される「夢二」の魅力。

1914「大正3」年には、自らデザインした封筒や千代紙を始めとする文具・小間物類を販売する「港屋絵草紙店」を開店し、当時の女性達の心をつかみ憧れの的となり、100年経過後も色褪せない魅力を堪能できる。

竹久夢二《憩い（女）》昭和初期

竹久夢二《晩春》1926年



大きなテーブルに秋の果物と一客の紅茶碗、無人の椅子が人待ち顔の女の孤独感をより深いものにしていく。



女と猫の視線は、何か突然の出来事の方に注がれ、猫の耳はピンと横に張って、明らかに緊張した様子である。